

第二章 将来の見通し

1. 人口の見通し

1) 近年の動向からみた今後の見通し

基本構想では、平成33年の目標人口を15万人と見込んでおり、第二次基本計画では、平成20年から3年間の人口増加を反映し、平成33年の推計人口を13万5千人としていました。

しかし、実際の人口は、平成23年から減少傾向にあり、平成27年の時点で約13万3千人となっています。

こうした状況を踏まえ、外国人を含めて将来人口を推計すると、平成27年から平成33年までに約6千人減少し、平成33年の人口は約12万7千人と見込まれます。

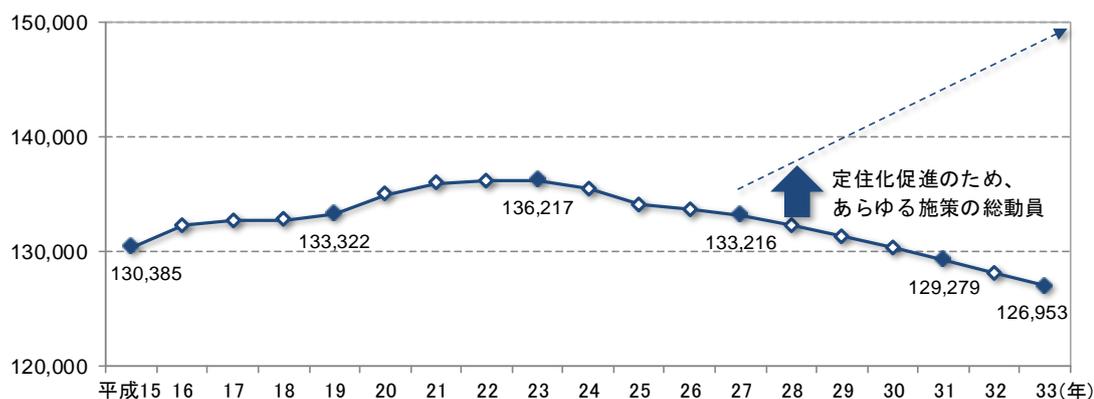
■第二次基本計画の推計値（平成33年）との比較

	平成33年
人口の見通し (A)	127,000
第二次基本計画の推計値 (B)	135,000
(A) - (B)	▲8,000

2) 今後の人口の考え方

基本構想で掲げた目標人口（平成33年：15万人）の達成に向け、若い世代にこれからもずっと住み続けてもらえるよう、また、我孫子市に移り住んでもらえるよう、結婚・妊娠・出産への支援や子育て支援、交通の利便性向上、住宅取得への支援、雇用の確保など、定住化を促進する施策を強化していきます。さらに、手賀沼をはじめとした良好な自然環境や都心への交通アクセスの良さなど、我孫子市のさまざまな魅力を積極的・効果的に発信して、市のイメージや知名度のアップを図り、人口の維持・増加につなげていきます。

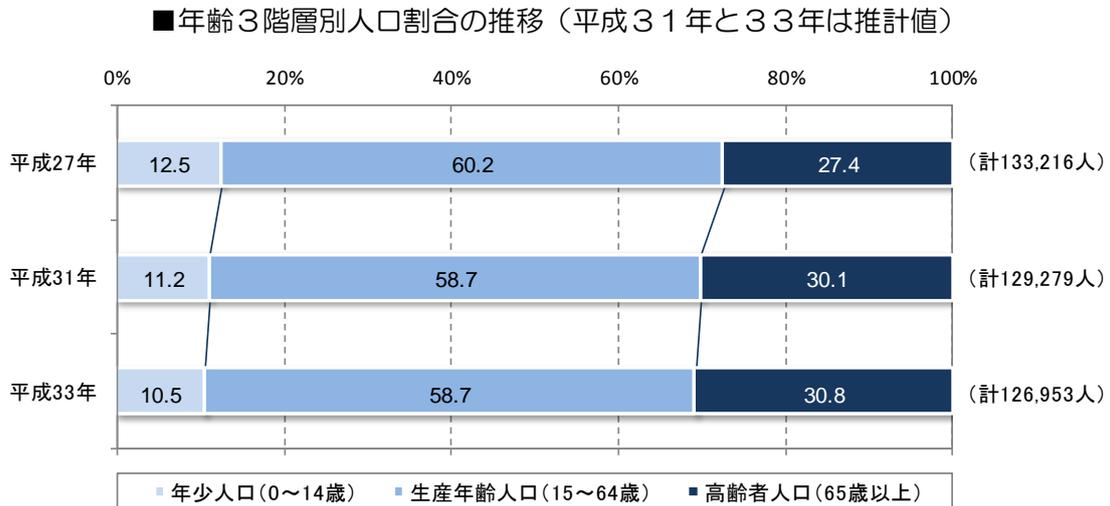
■人口の推移（平成28年より推計値）



3) 高齢化

高齢者の割合は、平成27年の27.4%（1月1日現在）が、平成33年には30.8%となり、高齢化がさらに進むものと見込まれます。

そのため、シニア世代を対象とした地域活動の担い手育成など、高齢者をはじめとした市民の力をいかしたまちづくりや、疾病予防、健康増進、介護予防などの健康寿命の延伸に向けた取り組みを進めるとともに、世代間の人口バランスに配慮し、若い世代の定住化を進めます。



また、土地区画整理や宅地開発などの面的事業が行われた区域ごとにみると、平成33年には、つくし野地区と久寺家地区で42%、湖北台7丁目と新木野地区で45%、布佐平和台2~7丁目地区で53%に達する一方で、我孫子2丁目では17%、南新木地区では16%、柴崎台地区では15%、南青山地区では12%にとどまる見込みです。

このように、各区域の開発年次によって高齢化率にばらつきがあることから、地域コミュニティの活性化や交通・買い物環境の充実など、地域の実態に合ったまちづくり施策を進めていきます。

2. 財政の見通し

我孫子市の財政状況は、景気回復の影響を受けつつも、高齢化の進展や生産年齢人口の減少といった人口構造の変化に伴って、歳入の根幹である市税収入は今後緩やかに減少していくものと見込まれます。

一方、超高齢社会への対応をはじめ、社会基盤の整備・維持管理や多様な市民ニーズに的確に対応していくための経費の増加が見込まれており、今後も厳しい財政状況が続くことが考えられます。

こうした厳しい状況の中、持続可能な財政運営を行っていくためには、財源の確保に一層努めるとともに、事業の選択と集中や、市民や企業との協働、人件費を含めた経常経費のさらなる削減などを進め、歳出をこれまで以上に抑制していく必要があります。

なお、次の歳入と歳出の見通しは、地方財政制度などの現行制度を前提に、現在の社会経済状況や人口推計結果などを考慮して行ったものです。

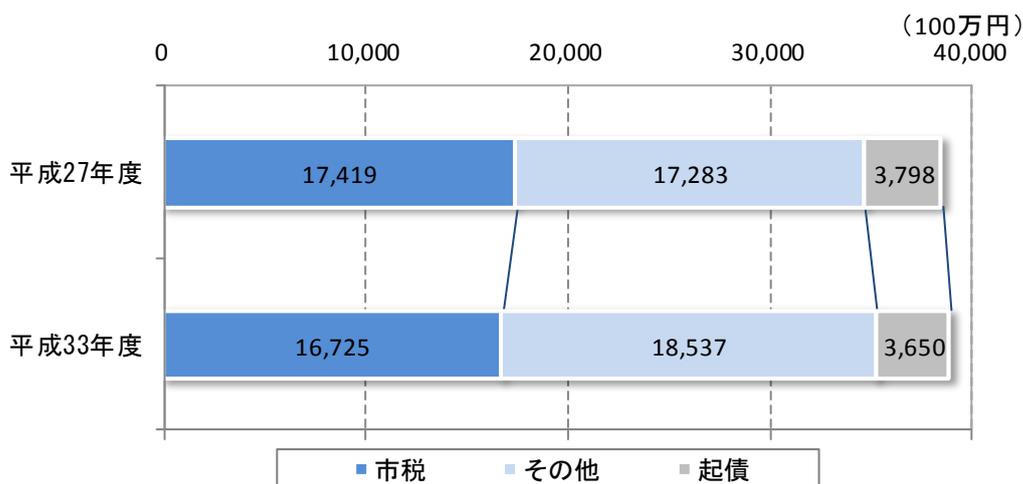
1) 歳入の見通し

平成33年度の歳入総額は、約389億円と見込まれ、平成27年度予算に比べて4億円程度の増と想定されています。

市税については、生産年齢人口の減少に伴って個人市民税が減少し、約7億円の減と見込まれます。そのため歳入の増収が図れるよう、交流人口の拡大につながる観光振興策や若い世代の定住化の促進につながる施策を強化するとともに、新たな企業が進出しやすい環境づくりや、商業や農業などの既存産業の活性化など、地域経済の拡大や雇用の確保を図り、活力あるまちづくりを進めていきます。

なお、3か年を期間とする中期財政計画に基づき、市債の発行を含め、より精度の高い財政の見通しをたてていきます。

■平成27年度予算と目標年次（平成33年度）の歳入見込みの比較



2) 歳出の見通し

歳出のうち、全体の50%以上を占める義務的経費については、人件費や公債費の抑制に引き続き努めていくものの、扶助費は少子高齢化の進展等を踏まえて年平均2%の伸びを想定しており、平成27年度予算に比べて15億円程度増加するものと見込んでいます。

普通建設事業費は、平成27年度予算の約43億円が平成33年度には31億円と、約12億円減少する見込みであり、さらなる事業の集中と選択を進めていきます。

■平成27年度予算と目標年次（平成33年度）の歳出見込みの比較

